

# 研修だより

## No.10

### No.9の続きです！

研修便り No.9の続きです。今回は高学年ブロックと特別支援ブロックで出た意見などをまとめました。目を通して頂き、今後の授業作りに生かしていただけると幸いです！

## 高学年ブロック

5年1組 林学級 国語科 単元「あなたは、どう考える」



### 視点1 個人目標とゴールまでの道筋

- 課題までみんなで確認することで、何をするのが明確になっていた。
- 市長に要望を伝えるなど、自分ごととして捉えられているのがよかった。
- △個別目標を立てるタイミングはいつが適切か。本時の学習が明確になったあとに立てる方法もあると思う。
- △個別目標をもつのは大事だが、どの子も共通して身に付けた力が押さえられていたか。

### 視点2 できた！わかった！の実感と学ぶ喜び

- 子どもが困っているときに、「この中でどれが大事だと思う？」などのように聞くかわかり方がよいと思った。
- △最後の振り返りは、課題に対しての振り返りなのか、個別目標に対する振り返りなのかが不明確だった。
- △文章が完成したから教えている子や文章を変えなかった子の「できた・わかった・成長した」変容は見られたのか。

### 授業全体を通して

- 児童それぞれが学びに向かっていた。
- 説得力のある文章に必要な内容を入れられたと、自信をもった児童もいた。
- 授業者の雰囲気よかった。
- △ポイントを抑えられているかの確認があるとよかった。自分のものを見て確認する時間があってもよかった。
- △授業の最初に自信があると答えた児童が多かった。**課題に対しての必要感**が足りなかった。
- △**学力の低い子へのアプローチ**が少ない。
- △どうなったら説得力を増すことができるかをもう少し明確に掴んでおくべきであった。子どもの手本を出すときに、悪い例とよい例を区別しても良かったように思う。

# 特別支援ブロック

カモカモ学級 1・2年生 自立活動 単元「ボッチャを楽しもう」



## 視点1 個人目標とゴールまでの道筋

- 個別のめあてと振り返りを毎時間徹底することで、よりの自分の成長を実感できていた。
- 先生たちの連携が取れていた。子どもと先生の関係もできている。
- 子どもたち一人ひとりが目標をもって、1時間頑張ることができていたのがよかった。ワークシートの積み重ねが見られた。
- △課題の「伝えよう」は話し合いの場面だったのか、ゲームで実際に言う場面だったのかが伝わりにくいかも（指導案上）。

## 視点2 できた！わかった！の実感と学ぶ喜び

- 交流学級担任と支援担任の連携。いいところや頑張りや、子どもの前で伝え合う。
- めあてを決めることで、他者意識にもつながった。
- 応援・励まし・アドバイスの3観点は、子どもから出てきた部分。
- 授業への取り組み方。姿勢や聞き方などを一つ一つ指導していた。

## 授業全体を通して

- 安心して活動に参加できる、先生方の言葉掛けやタイミング、表情が秀逸。
- 時間配分が良かった。子どもの活動時間が確保され、テンポも良く、集中して参加できていた。
- 4月からの積み重ねの成果が、随所に見られる授業だった。（ワークシート、学び方）
- 課題の説明を丁寧に行ったり、「おうえん・はげまし・アドバイス」などの視点が明確であったりしたため、子どもたちがめあてを意識して活動することができていた。
- 個人のめあてを立てたことが有効であった。適切に振り返ることができていたし、他者意識にもつながっていた。
- △話し合いの進行など、子どもたち自身でできることがもっとあったのではないかな。

## 高学年ブロック

指導主事よい

- ・学びの主人公となる子どもたちには、**当事者意識**と**疑う視点**をもってほしい。
- ・今、必要なのは「**自律する力**」で、全ての子どもが「**必要な学びを**」**自分で考え判断し、決定し行動する力**をつけることなので、教師は必要な力を子どもが学び取れるようにマネジメントすることが大切。  
→**目標と評価の精査が必要**。

## 特別支援ブロック

指導主事よい

- ・授業序盤の、子どもたちへの先生たちの言葉掛けが、安心感を生んでいた。
- ・振り返りの、前回のものへのコメント、子どもたちの学習意欲を引き出している。
- ・道徳の授業に関連がある ・今後、今日の学びが道徳につながってくる。
- ・自立活動は各教科の下支えとして大切である。
- ・子どもたちの**つばやきや行動を自然と拾って言葉掛けしていた**。